

JCM REPORT

5

2025 MAY
Vol.34 No.3

行政topics

～ TEC-FORCEと建設業団体等が連携した対応について ～

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室
国土交通省 北陸地方整備局 防災部

現場最前線

勝井建設における2024年問題への対応

勝井建設株式会社





第12回土木工事写真コンテスト 入選作品

★入選「富士山に向かって」松本 堅太郎 様（静岡県）



写真説明

静岡県富士市の舗装工事です。
富士山に向かって道路をつくっているような写真が撮れました。

★入選「地盤と戦う男達！」木下 哲治 様（旭建設株式会社/宮崎県）



写真説明

グラウンドアンカー工でのボーリング削孔での一コマです。

オペレーターは30年のベテラン、手元のCW（作業員）さんは1年目の若手。

ベテランと若手のタッグにより困難な地すべり工事に果敢に向き合い、地盤と戦う職人たちの真剣な姿がカッコいい。

表紙の写真：第12回土木工事写真コンテスト 最優秀作品
『工事も収穫も急ピッチ』伊藤 良一 様（神奈川県）

写真説明

第2東名川内川橋工事

工事現場近くまで茶畑が広がり収穫が急ピッチで行われていました。

講評 迫力と緊張感のある橋梁架設風景の手前では初夏の日差しを浴びて地域名産の御殿場茶の収穫の真最中です。なにげない茶摘み風景の背後に巨大な橋を建設中というコントラストが素晴らしい作品。もう少し望遠で茶葉と農家の方々に近づいて背後の工事風景と上下半々の比率のレイアウトでしたら異空間の融合といった面白い作品になったかもしれません。（土木写真家 西山芳一）

▶▶▶行政topics

2 ～ TEC-FORCEと建設業団体等が連携した対応について ～

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室

国土交通省 北陸地方整備局 防災部

▶▶▶現場最前線

6 勝井建設における2024年問題への対応

山口県土木施工管理技士会 勝井建設株式会社 取締役常務 勝井 勇次

▶▶▶ハートフル通信

9 いつか現場の先頭に立つ女性になれるように

(一社) 日本建設業連合会

鹿島・大成特定建設工事共同企業体 河内川橋JV工事事務所 尾崎 夏奈

▶▶▶連載特集 アスファルト舗装のはなし

10 第8回 特殊舗装

一般社団法人 日本道路建設業協会 技術政策等情報部会

▶▶▶技士会・連合会news

12 CPDSからのお知らせ

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

13 第29回 土木施工管理 技術論文 技術報告 審査結果

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

14 第12回 土木工事写真コンテスト 審査結果発表

15 第13回 土木工事写真コンテスト 募集中

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

16 2025年度 JCM講習会

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

17 2025年度 JCM講習会日程

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

18 技士会紹介

滋賀県土木施工管理技士会

佐賀県土木施工管理技士会

～ TEC-FORCEと建設業団体等が 連携した対応について～

国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室
国土交通省 北陸地方整備局 防災部

1. はじめに

緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE=Technical Emergency Control Force）は、インフラの整備や管理の専門的な知識を有する国土交通省職員で構成され、台風や豪雨、地震や津波等、災害の発生や発生のおそれがある場合にいち早く被災地へ派遣され、被災状況の把握、被害の発生及び拡大防止、被災地の早期復旧、その他災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施します。

災害現場において、TEC-FORCE隊員は建設業団体等と連携して、湛水地区の排水活動、土砂やがれきなどで寸断された道路の啓開等を行います。

本稿では、TEC-FORCEと建設業団体等と連携した対応について、令和6年能登半島地震、令和6年9月20日からの大雨（奥能登豪雨）等の事例を紹介します。

2. 令和6年の主な災害

我が国では毎年のように大規模な地震や風水害

等の自然災害が発生しており、令和6年も能登半島で発生した地震・大雨をはじめとして、7月の梅雨前線や台風第10号による大雨や宮崎県日向灘沖を震源とする地震など、全国各地で災害が発生した。

これらの災害では、多くの尊い命が奪われ、公共土木施設についても全国で13,568箇所、1兆6,202億円に上る被害が発生し、被災地域の方々の生活に大きな影響が生じた。（令和7年2月28日時点）。

令和6年に発生した主な災害について紹介する。

(1) 令和6年能登半島地震

1月1日、マグニチュード7.6の地震が発生し、石川県輪島市、志賀町で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強から震度1を観測。この地震に伴い、高さ4m（推定）の津波が石川県珠洲市や能登町を襲った。能登地域を中心に地震により多数の家屋が倒壊・焼失し、津波による浸水、海岸の隆起、土砂崩壊等に伴う交通網の寸断、停電や断水などのライフラインの途

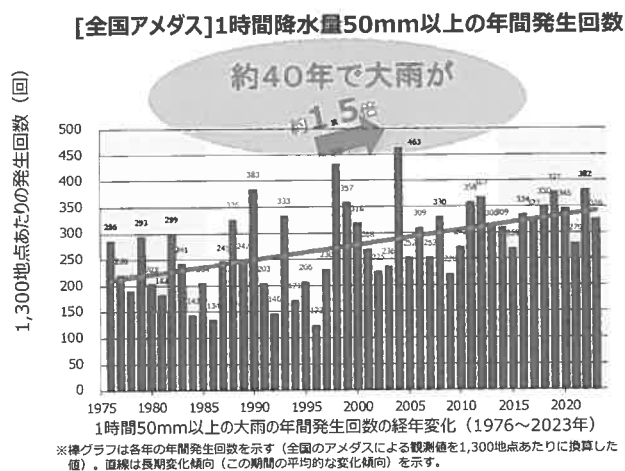


図1－短時間強雨の発生回数

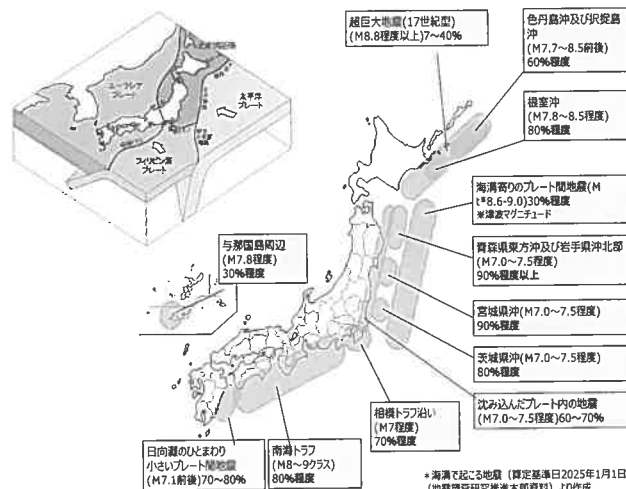


図2－主な海溝型地震の今後30年以内の発生確率

絶、さらに、石川県、富山県、新潟県の広い範囲では液状化による被害が発生した。

この地震は、関連死を含め死者515人（令和7年1月28日時点）に及ぶ激甚な災害となった。

(2) 7月25日からの大雨

7月23日頃から北日本に停滞した梅雨前線の影響により、東北地方の日本海側を中心に大雨となり、山形県では25日の昼過ぎと夜に線状降水帯が発生し、大雨特別警報が2度発表された。また、東北地方を中心に、24日から26日にかけての3日間の降水量が400mmを超えた地点や平年の7月の月降水量を超えた地点があり、記録的な大雨となった。

この大雨により、国管理河川では2水系4河川、県管理河川では11水系35河川で氾濫したほか、計16箇所（国3箇所、秋田県8箇所、山形県5箇所）で堤防の決壊や欠損を確認。また、山形県を中心に67件の土砂災害、最大2,805戸で断水が発生するなどの被害が発生した。

(3) 宮崎県日向灘を震源とする地震

8月8日16時42分頃にマグニチュード7.1、深さ31kmの地震が発生し、宮崎県日南市で震度6弱を観測したほか、近畿地方から奄美群島にかけて震度5強～1を観測。この地震を受けて開催された「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の結果を踏まえ、気象庁は初めて「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」を発表。政府は南海トラフ地震防災対策推進地域に対して、地震発生から1週間、日頃からの地震への備えの再確認や、すぐに逃げられる態勢での就寝、非常持出品の常時携帯などの特別な注意について呼びかけを行った。また、この臨時情報を踏まえ関係する鉄道事業者は鉄道の運休・速度を落とした運転などの対応を行った。

(4) 台風第10号

台風第10号の影響により、8月28日から31日にかけて鹿児島県、宮崎県、大分県、徳島県、香川県、兵庫県及び三重県では線状降水帯が発生したほか、8月27日から9月1日までの雨量が東海地方や九州南部では900mmを超えるなど、平年の8月の月降水量の2倍以上の記録的な大雨となる地点があった。

この大雨により、国管理河川では1河川、県管理河川では30水系42河川で氾濫、2水系2河川で堤防欠損を確認したほか、133件の土砂災害、最大3,508戸で断水が発生するなどの被害が発生した。

(5) 9月20日からの大雨

能登半島地震からの復旧・復興途上の中、9月21日から22日にかけて、日本海の低気圧や前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が非常に不安定になり、輪島市で121mm、珠洲市で84.5mm、最大24時間降水量は輪島市で412mm、珠洲市で315mmとなり統計開始以来1位となる記録的な大雨となった。

この大雨により、石川県管理の21水系28河川で氾濫したほか、石川県を中心に272件の土砂災害、最大5,216戸で断水が発生するなど、1月の地震により被害を受けた能登半島で再び甚大な被害が発生した。

3. TEC-FORCEの概要

TEC-FORCEは、大規模自然災害の発生又は発生のおそれがある場合において、河川・砂防、道路等の各分野に精通した国土交通省の職員や資機材を派遣し、被災した地方公共団体の円滑かつ迅速な復旧活動等を支援するため、平成20年4月に創設されました。隊員には、国土交通本省、地方整備局等、地方運輸局、地方航空局、国土技術政策総合研究所、国土地理院、気象庁の職員がおり、それぞれの専門分野で支援活動を行っています。

TEC-FORCEの活動内容は、①被災状況の迅速な把握、②被害の発生および拡大の防止、③被災地の早期復旧、④その他災害応急対策に対する技術的な支援等による被災地方公共団体の支援です。

①被災状況の迅速な把握

被災地域全体の被害状況を、発災直後に迅速に把握するため、国土交通省が保有する災害対策用ヘリコプターや測量用航空機を出動させ、上空から調査します。災害対策用ヘリコプターが撮影する映像は、衛星回線を利用してリアルタイムに、被災地方公共団体にも提供可能です。

また、陸上では、河川や砂防、道路、港湾等の施設の被害状況の調査、通行可能な道路の調査、橋梁や危険溪流等の安全性の確認等を実施し、施

設管理者である地方公共団体に報告します。立ち入りが難しい危険な被災現場では、ドローン（小型無人航空機）やレーザー距離計を活用して調査を行います。

②被害の発生および拡大の防止

浸水被害や土砂崩れ等の発生時には、排水ポンプ車による排水活動、遠隔操作式バックホウ等による崩土除去、被害拡大の恐れがある場合は、救命救助活動を夜間も行えるよう照明車の配備、可搬型カメラによる危険箇所の監視・映像の共有等を行います。

③被災地の早期復旧、

地方公共団体が管理する施設の応急復旧、土砂やがれき等が堆積した道路の啓開等を実施します。

④その他災害応急対策に対する技術的な支援

救命救助を行う警察・消防・自衛隊等に通行可能な道路の情報の提供や、救命救助活動時の二次災害防止の観点等で技術的な助言を行います。また、早期の災害復旧を支援するために、各種災害復旧事業に関する技術的助言、地図等の地理空間情報の提供、被災建築物の修繕や応急危険度判定等を行います。



写真3－浸水地区の排水活動
(7月25日からの大雨)



写真4－市町村長に支援ニーズの確認
(令和6年能登半島地震)



写真1－災害対策用ヘリコプターによる被災状況の把握
(令和6年能登半島地震)



写真2－被災状況調査
(令和6年能登半島地震)

4. TEC-FORCEと建設業団体等の連携

令和6年能登半島地震、令和6年9月20日からの大雨では、TEC-FORCEと建設業団体等が連携して、被災状況の迅速な把握、被害の拡大防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方公共団体の支援を行いました。

①TEC-FORCEの活動

TEC-FORCEは、地震発生直後から全国の地方整備局等から被災地に集結し、情報収集、応急対策、被災状況調査、高度技術指導、物資支援など、多岐にわたる活動を展開しました。能登半島特有の地形と厳冬期の気象条件に加え、宿泊施設の不足や道路の寸断等による長時間の移動、通信や上下水道の途絶など厳しい環境下での活動となりました。そのような環境で、建設業団体等と連携して、道路啓開、電源支援、給水支援等に24時間体制で継続的に取り組みました。



写真5－建設業団体等と連携した道路の緊急復旧
(石川県輪島市)



写真6－照明車を活用した避難所への電源支援
(石川県珠洲市)



写真7－給水装置付散水車による給水支援
(石川県かほく市)

令和6年能登半島地震におけるTEC-FORCEの派遣規模は、創設以来2番目の延べ25,967名、派遣期間は過去最長の152日間になりました。

②全国の建設業団体等の活動

地震発生直後、全国の建設業団体等は、救命救助活動の支援や孤立集落の解消のための道路啓開、二次災害防止のための応急対策等を実施しました。特に、能登地域の建設会社が被災し、十分な活動が困難な状況下で、全国からの協力会社と資機材の提供は大きな力となりました。応急対策は、24時間体制の施工を交代制で実施し、車中泊やキャンピングカーを活用して移動時間を短縮し

ました。また、バイオマストイレや仮設シャワーなどの環境整備や、低軌道周回衛星を使用した通信環境の確保など、作業環境の改善を図りました。さらに、自衛隊との連携により、ホバークラフトを活用して海上から重機・資材の搬入を行い、応急対策を加速させました。燃料不足に対しては、県外の協力会社がミニローリーで重機の燃料を確保するなど、全国の建設会社が一丸となって復旧活動に取り組みました。

③地元建設会社の奮闘

能登地域の建設会社の中には、自ら被災者でありながら、地元の復旧に貢献するという強い意志のもと、避難所から現場に通い、緊急工事に従事したケースもありました。また、金沢や加賀などの能登地域外の地区協会でも、現地に投入された重機を引き継ぎ、現地で車中泊・自炊を行いながら、交代制の班編制等により復旧活動を行いました。活動中の各班の情報共有には、チャットツールを活用して、日々変化する現場状況に対し、救援物資や復旧資材の調達・輸送を行いました。このように、「能登地域を守る」という使命感のもと、オール石川の総力戦で復旧にあたりました。

5. おわりに

TEC-FORCEは発足から17年が経過し、これまでに令和6年能登半島地震をはじめ、様々な規模や種類の災害において、建設業団体等とともに、警察・消防・自衛隊等の関係機関と緊密に連携し、被災した地方公共団体を支援して、早期復旧に貢献してきたと考えています。

自然災害が激甚化・頻発化している状況に鑑み、TEC-FORCEの重要性は益々高まっていると考えています。引き続き、国民の安全、安心の確保という使命を果たすため、現場力・技術力の向上、TEC-FORCEの充実・強化を図ってまいります。

勝井建設における 2024年問題への対応

山口県土木施工管理技士会
勝井建設株式会社
取締役常務 勝井 勇次

1. 背景

2025年を迎え、2024年4月より、いわゆる「働き方改革関連法」が当社のような中小規模の建設業者も適用対象となり、就業時間を適切に管理し、定められた労働時間の範疇で求められる成果を出し、建設業「新3K（給与・休暇・希望）」にふさわしい企業への早急な変革が求められている。

改めて「働き方改革関連法」に定められた就業時間を整理すると、

- ①週40時間労働（平日8時間×5日）
- ②時間外労働年360時間（月平均30時間、最大45時間、休日勤務時間含む）
- ③いわゆる「36協定」締結により、最大720時間の時間外労働

※最大100時間を年1月、最大80時間を年2～6月、休日勤務時間含む

である。

つまり①により原則週休2日が求められ、②により月1日の土曜出勤を含める場合は土曜の8時間勤務が時間外労働として計算されるため、平日の時間外労働は原則1時間までとなる。③による繁忙期対応についても、休日勤務時間が含まれることや、年間の最大労働時間を十分考慮しながら管理していく必要がある。

一方で、2024年問題への対応は、政府が求められるi-Construction2.0への対応と対をなすものであり、労働時間管理は、イコール労働生産性管理でもあり、本問題への対応を適切に進めることで、

企業としての生産性を大きく向上させ、建設業の魅力・責務を社会に発信し、地元の雇用先としての役割を果たしていくことに繋がっている。

当社は以上の背景を踏まえつつ、2024年問題への取組を進めているところである。

2. 会社概要

当社は昭和22年（1946年）に勝井組として創業し、昭和24年有限会社を経て昭和33年（1958年）勝井建設株式会社に組織変更し、現在に至る、山口県岩国市を中心として土木・建築を主たる地方ゼネコンとして業に携わっている。

主たる工事として国・山口県・岩国市、そしてNEXCO西日本や下水道事業団から受注した公共工事、岩国・大竹地区所在のコンビナート在住の各工場から依頼されるメンテナンス工事、その他各種民間発注案件等を手がけている。

3. 2024年問題における課題と 当社の取組

3.1. 就業時間の管理

働き方改革関連法に定められた労働時間上限が2024年4月以降適用されることを踏まえ、当社では時間外労働の抑制に2021年以降本格的に着手し、2021年度は時間外労働を月平均50時間以下にすることを全社員に求めて目標ラインを設定し、以後2022年45時間以下、2023年40時間以下に目標ラインを引き下げつつ、各部署毎に時間外労働抑制に努めてきた。

また、2023年度以降、勤務日に2時間を超える時間外労働が見込まれる場合は社長に連絡して業務予定を説明した上での許可制とすることで、さらなる啓発を図っている（2025年以降、同1時間超の時間外労働に適用対象を強化した）。

3.2. 勤務態様の見直し

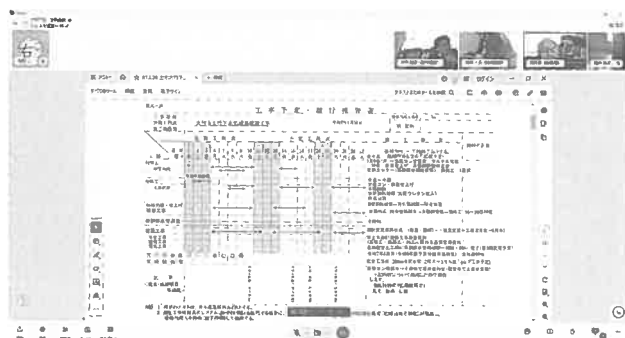
当社は年間休日108日の変形労働時間制を採用している。以前は各種会議は定時外に、関係社員を集合させての開催としてきたが、移動時間や会議時間が時間外にかかることから2020年頃より見直しを進め、現在は毎月第一土曜に各会議を集約・開催する態様としている。その他の土曜は休日に設定し、原則週休2日の勤務態様としている。

あわせて有休奨励日を設定し、祝日との組み合わせで社員が連休を取りやすくなるよう勧奨している。

3.3. 本社と現場の連携

業務において、本社との連携を強化するため、現場単位で定例会議を原則毎週1回開催し、社長・専務・担当部長・現場職員全員が参加した上で工程・施工方法・原価・安全等について進捗や種々の問題を早期に把握し、対策を検討・実施して業務の手戻りや停滞防止を図っている。業務負荷が大きいと判断される場合は緊急の増員も実施している。

当会議は可能な限り対面で実施しているが、現場に参集できない場合はWeb会議も併用して参加人数を確保すると共に、会議内容を動画保存して不参加者も後日把握するようにしている。

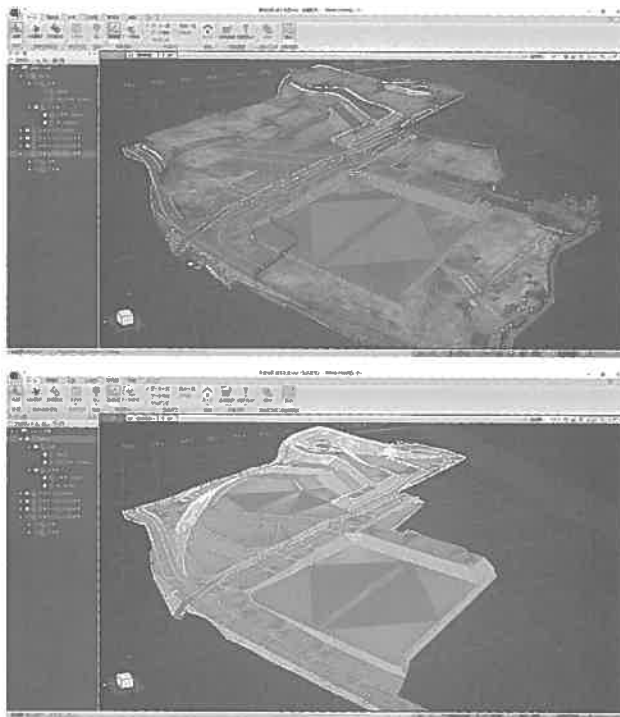


Skypeを用いたWeb会議開催状況

3.4. 業務生産性向上の取組

i-Construction2.0では、2040年までに現場の3割省力化と生産性1.5倍向上を目指しており、当社もこの目標に追随するため、各種ツールの導入をはじめとする生産性向上に取り組んでいる。

2023年までに、現場職員全員にタブレットツールを配布し、電子黒板アプリを導入して写真の自動編集やその場での事務作業を行うことで、移動時間や事務作業時間の短縮を実施した。大容量のタブレットは工事に関連する設計図書や規格類、さらに建設DXに不可欠のCAD図面や点群データ等も携帯し、必要に応じて現場で修正し、関係者で共有することで工事生産性を大きく向上させている。今後情報のクラウド化を推進し、全現場の情報共有を一層深化させる予定である。



3D-CADによる現場点群データ描図

3.5. ICT施工

ICT施工の導入が各社にて進んでいるところがあるが、当社も造成工事にて適用し、効能を確認した。本工事では省人化に加え、非熟練者でもベテラン職人と同レベルの施工が可能であることが実証され、生産性向上に大きく寄与することが確認された。

また、ドローンによる空撮は現場を俯瞰的に確認でき、前述の点群データ作成や施工管理にも大きく寄与できる。

その他、当社では地中探査機や歪み計測器等、他社では外注に頼ることの多い測量・計測業務における専用機器の自社保有を建設DXが謳われる以前から進めており、機器を取り扱う職員の教育や資格取得を奨励し、現場のニーズに応じて能動的・機動的に計測業務を実施し施工管理の一助としている。

ICT施工における課題としては、導入コストが高額なことが挙げられる。ICT対応重機はもとより、計測器等の小型機器でも現場経費に組み込む金額ではなく、特に小規模工事ではかえってコスト負担が増すことから、設計単価への反映等を施主側と協議していく必要も考えている。



ICT重機による土工



ドローンによる現場空撮

3.6. 技術職員の確保

従来「3K」と呼ばれ、敬遠されがちだった建設業であるが、昨今の人手不足に加え、熟練職員の退職が喫緊であることから技術伝承を早急に行う必要もあり、若手職員の確保が急務である。

当社としても学生への出張授業や相談会開催等で当社のみならず建設業全体としての魅力発信に務め、また待遇の改善も推進し、職員の採用を積極的に行っていきたいと考えているが、本件は業界全体の課題でもあるため、国や地方自治体、さらには競業各社との連携も含めた一体的な情報発信の方法を今後とも模索していきたいと考えている。

3.7. 安全管理

従来の建設業「3K」は「きつい・汚い・危険」の象徴であったが、現場作業は実際にそう表現せざるを得ない過酷な状況である。しかしこの状況を技術の進歩で改善・克服することが2024年問題対応の主眼の一つであり、その成果を広く周知することで建設業を若手職員にとって魅力あり、就職先として選んでもらえる職場に変えていく取組を当社でも行っている。

前述のドローンによる空撮やICT重機による遠隔操作は、職員・作業員を高リスクの現場に直接入る必要なく作業を進められる安全対策の一環でもある。

またVR技術の進歩は、従来映像上映に依った安全教育を体験型に進化させるものであり、業界の講習等の機会に社員教育の一助とし、実際の事故に近い状況を安全に経験させることで、安全意識の啓発やリスク管理に役立てているところである。

4 まとめ

2024年問題が同年4月の中小建設業者への適用で顕在化し、以前より着手されていた取組をより実効あるものへと進捗させていく段階に入ってきたが、本問題は業界全体への影響が極めて大きく、当社一社のみならず域内業者との連携、さらには施主側との調整も含めた一体的な行動が求められる。

ている。

特に労働時間の短縮と職員の待遇改善、それに付随する労働生産性の向上は後継者を育成しつつ業界を維持し、さらに発展させ、地域の担い手として存続し続けるために一層の注力が必要であり、当社としても新しい先端技術の習得や他社との連携を進め、今後とも地元を支え続ける企業として存立していきたいと考えている。

ハートフル通信

いつか現場の先頭に立つ女性になれるように

(一社)日本建設業連合会 尾崎 夏奈
鹿島・大成特定建設工事共同企業体 河内川橋JV工事事務所

私は鹿島建設に入社して4年目で、入社してから現場の施工管理業務に携わっています。新入社員でトンネル現場に配属され、そこで2年間働いた後、入社3年目で橋梁現場に配属されました。今回は、今まで数年間働いてきて感じたことを書かせていただきます。

最初に配属されたトンネル現場では、とにかく現場を見て覚えることが大事と上司から教わったので、朝から夜までずっと現場に出て作業を見ていました。入社当初はずっと外にいただけで体力的に辛かったことを覚えています。現場に慣れてきたら測量や資材手配、他エリアとの作業調整などを主に行いました。ささいなことでも、現場で自分の意見が通ることが徐々に増えていき、嬉しかったです。

3年目で現場異動してからは、今まで行ってきた現場業務に加え、施工の計画を立てる機会が増えました。どのように施工するかを話し合っているのは、とても面白いのですが、施工が上手くいかなかった時の責任も自分にあるので身が引き締まる思いです。

私が配属された2現場はどちらも大規模現場

で、他に女性社員もいて設備も整っていたため、とても働きやすい環境でした。他の現場も女性が働きやすい設備が整っているところが多いと思います。しかし、特に若手の現場業務は、ずっと現場にいたり重い測量道具を持ったりと、女性には体力的に厳しい点も多いです。また、土木は経験工学と言われるように経験することが大事ですが、女性は出産や育児で現場を離れなくてはいけない時間があるので、限られた時間の中で、より多くの知識を吸収しなければいけないというプレッシャーはあります。



先日、建設業界で働く女性の方たちとの意見交換会に参加させていただき、絶対に所長になると強い意志を持たれている方がおられました。ネガティブな意見が多い中、非常に心強く印象に残りました。土木業界は女性にとって決して働きやすい業界ではないですが、それでもいつか先頭に立てよう、まずは今自分が担当している工事を責任を持って頑張りたいと思います。

アスファルト舗装のはなし

一般社団法人 日本道路建設業協会
技術政策等情報部会

普段我々が何気なく利用している「道路」は様々な工学的知見に基づいて作られています。本連載ではこの道路のうち特に「アスファルト舗装」に着目し、掘り下げていきます。

第8回 特殊舗装

アスファルト舗装には、特殊な性能や機能を有する舗装があります。特殊な性能や機能とは、例えば、耐流動性、耐油性、明色性、景観性、排水機能、騒音低減機能、路面温度の上昇抑制機能などです。ここでは、代表的な特殊舗装として、半たわみ性舗装、排水性舗装、遮熱性舗装を紹介します。

■半たわみ性舗装

半たわみ性舗装は、空隙が多いアスファルト混合物（ポーラスアスファルト混合物）にセメントグラウトを浸透させた舗装です。1954年にフランスで開発され、日本には1961年末にサルビアシム舗装という名前で導入されました。

アスファルト舗装は、施工が比較的容易で、施工後、数時間で交通開放できますが、変形やわだち掘れが発生しやすいことが欠点です。コンクリート舗装は高い耐久性がありますが、施工後、交通開放までの養生時間が長いという課題があります。

半たわみ性舗装は、通常のアスファルト舗装に比べて変形しにくく、通常のコンクリート舗装に比べ、施工後、早く交通開放できます。

また、油類やアルカリ類に対する抵抗性や難燃性も持ち併せています。さらに、セメントグラウトが白色なので、通常のアスファルト舗装に比べて、路面が明るくなります。

これらの特長から、半たわみ性舗装は、重い車両が通行する構内道路や資機材の保管ヤード、バスターミナルやバス停などの他、明色性や景観が重視される公園や商店街などに、多く採用されています。特に、最近では、半たわみ性舗装にカット目地を入れて石畳風に仕上げた景観舗装が増えています（写真1）。



写真1 石畳風の半たわみ性舗装

■排水性舗装（低騒音舗装）

排水性舗装は、雨天時における車両の走行安全性の向上を目的に開発されました。我が国で最初に施工されたのは1987年の東京都の環状7号線です（写真2）。その後、1993年に（公社）日本道路協会から排水性舗装技術指針（案）が発刊され、1995年頃から普及しました。

排水性舗装は、表層にポーラスアスファルト混合物、基層に水を通さないアスファルト混合物を使った舗装のことです。通常のアスファルト舗装は、降った雨が舗装の表面を流れて路肩に排水されますが、排水性舗装は、降った雨が表層のポーラスアスファルト混合物の中を通過して路肩に排水されます。

このため、降雨時に舗装表面に水膜ができなくなるので、車両が水膜の上を滑るハイドロプレーニング現象が生じにくくなります。さらに、水膜による反射もなくなるので、ドライバー目線からの視界が向上します。これらの結果、雨天時における車両の走行安全性が向上します。

また、通常の舗装では、車両が走行する際、タイヤの前側で舗装の間に巻き込まれた空気が圧縮され、タイヤの後側で開放されるときに騒音が発生します



アスファルト舗装のはなし

が、排水性舗装では、タイヤと舗装の間に巻き込まれた空気が、ポーラスアスファルト混合物の空隙に逃げるため、圧縮されにくくなって騒音も小さくなります。この特徴から、排水性舗装は低騒音舗装と呼ばれることもあります。特に車両の走行安全性が重視される高速道路や騒音が気になる都市内道路などで多く使用されています。



写真2 都道環状7号線に適用された排水性舗装
(手前側：排水性舗装)

遮熱性舗装

アスファルト舗装は、太陽からの熱を吸収し、夏季の昼間には、表面温度が60℃を超えます。熱くなったアスファルト舗装は、その上の空気を温めます。このため、地方に比べ道路が多い都市部では、アスファルト舗装がヒートアイランド現象の原因の一つと言われています。そこで、2002年に、路面温度の上昇を抑えることを目的に、遮熱性舗装が開発されました。

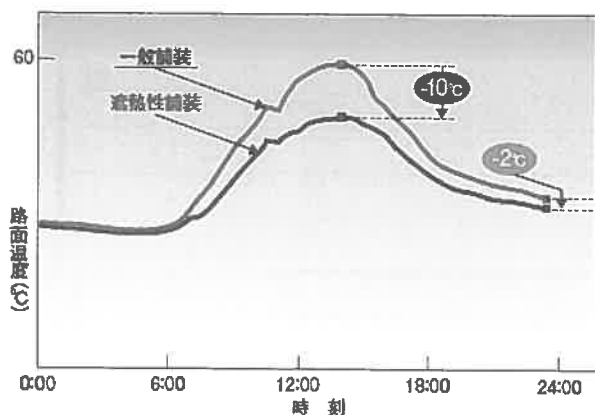


図1 路面温度測定例¹⁾

遮熱性舗装は、特殊な塗料をアスファルト舗装の表面に塗布することで、太陽光の反射率を高めて舗装への蓄熱を抑えた舗装です。夏季の路面温度の上昇を10℃程度抑制する効果があります(図1)。また、副次的には、舗装が熱くなりすぎないので、わだち掘れや変形が生じにくくなり、その結果、舗装が長持ちします。

特に都市内の道路、人が集まる公園や広場などで採用され、開発された2002年から現在までに、全国で約300万㎡の施工実績があります。写真3は、2003年と2004年に、国道15号銀座中央通りに適用された遮熱性舗装です。現在でも舗装を打換えることなく供用されています。



写真3 銀座中央通りに適用された遮熱性舗装

おわりに

今回は、特殊舗装として、半たわみ性舗装、排水性舗装、遮熱性舗装を紹介しました。これらの他にも、橋梁の鋼床版上に防水層を兼ねた基層として使用されるグースアスファルト舗装、降雪による路面凍結を抑制する凍結抑制舗装、製造時のCO₂排出量を低減した混合物を用いた中温化アスファルト舗装など、様々な舗装があります。今後も、社会が必要とする舗装を開発していきます。

【参考文献】

- 1) クール舗装研究会HP、遮熱性舗装の機能
<https://www.coolhosouken.com/solarheat-blocking/>



CPDSからのお知らせ

CPDSでは、ガイドラインを年度ごとに改定いたします。2025年4月1日に2025年度版ガイドラインを発行しました。申請やお問い合わせいただく前に、必ずご確認をお願いします。

【主な改定ポイント】※「実施」とは受講日や実施日などを示します。

①A分類コード「小分類・主な内容」を変更します。

主に2024年度までの310・311の扱いが変更になります。

②講習会実施機関IDから申請があった映像学習で、双方向学習であれば形態コード101として審査をします。(2025/4/1実施より)

③インターネット学習（形態コード403）の運用を一部変更します。(2025/4/1実施より)

主催者からCPDSに申請があったプログラムと、それ以外のプログラム申請でユニット換算の規定が変わります。

●主催者からのプログラム申請は、規定の運用で実施する必要があります。

A. 形態コード101-1に該当する内容は、「1時間1ユニット」で計算します。

B. 形態コード101-2に該当する内容は、「1時間0.5ユニット」とします（2024年度までは非承認）。

●上記以外のプログラム申請は「1時間0.5ユニット」とし、一部運用を緩和します。

A. 講習ごとの運用確認は行わず、主催者発行の「受講証明書」で受講確認を行います。

B. 形態コード101-2に該当する内容もユニット対象とします（2024年度までは非承認）。

④学習履歴証明書のフォーマットを変更します。

優良ユニットと社内研修の表示を削除します。

⑤社内研修のオンラインセミナーの取り扱いを変更します。(2025/4/1実施より)

社内研修のオンラインセミナーのエビデンス資料等に変更があります。

2025年度ガイドラインのダウンロード

HOME (<https://www.ejcm.or.jp/>) <CPDSとは

https://www.ejcm.or.jp/wp-content/themes/lightning_child_JCM/jcm/pdf/cpdsguide.pdf

CPDSとは

CPDSは個人IDの加入者が講習会などで学習をした場合に、その学習の記録を登録し、必要な場合に学習履歴の証明書を発行するシステムです。

一般に継続学習はCPD (Continuing Professional Development) と呼ばれますが、JCMは平成12年に他の建設系学・協会に先がけいち早くCPDを導入し、特に所有の名称としてCPDにSystemのSを付けてCPDSと呼んでいます。

また、CPDSは公共工事の入札の総合評価における技術者能力や経営事項審査の評価にも活用されています。

※ 経営事項審査におけるCPDSの活用について

2025年度

- CPDSのご案内
- CPDSガイドライン

ガイドラインはここからダウンロードできます。

第29回土木施工管理技術論文技術報告審査結果

第29回の募集は令和6年7月1日から11月30日で行い、応募いただいた技術論文45編、技術報告61編を受理いたしました。『技術論文審査委員会』に於いて厳正なる審査が行われ、以下のとおり決定いたしました。今回の技術論文最優秀賞は幹事会、委員会において白熱した議論の末に2編を決定いたしました。5月30日の定時総会後の表彰式で表彰される予定です。

〈第29回 土木施工管理 技術論文・技術報告 表彰者一覧〉

賞 名		題 名	主執筆者名	会社名	技士会
技術論文	最優秀賞	国内最大級のアーチカルバート設置工事	清永 友和	松尾建設株式会社	佐賀県
	最優秀賞	鋼製横梁現場溶接への多関節溶接ロボット適用	橋爪 忠雄	佐藤鉄工株式会社	日本橋梁建設
	インフラDX賞	RPAとAI技術を活用した資材管理のオートメーション化への取組	早川 剛史	萩原建設工業株式会社	(一社)北海道
	優秀賞	鋼橋出来形管理省力化システムの開発と有効性の検証	西田 正人	宮地エンジニアリング株式会社	日本橋梁建設
	優秀賞	補強土壁のCIM活用、TLS測量による3次元品質管理	勝下 晃太郎	蜂谷工業株式会社	岡山県
	優秀賞	配筋検査ツール「Modely」活用による生産性の向上について	森谷 光希	株式会社新井組	兵庫県
	特別賞	建設ディレクター制度を取り入れ生産性向上	江藤 登美宣	旭建設株式会社	宮崎県
技術報告	最優秀賞	現況構造物の3D化とICTバックホウによる排雪作業	森下 真朋	株式会社森下組	新潟県
	優秀賞	地域の民間工事におけるICT技術の活用と普及	仲達 貴世	株式会社荒木組	岡山県
	優秀賞	塗替え塗装の塗膜剥離における特殊部のIH（電磁誘導加熱）式塗膜剥離施工	絹見 哲也	日本橋梁株式会社	日本橋梁建設
	優秀賞	土砂運搬におけるダンプトラックと誘導員の接触事故防止対策	山内 敦貴	岩田地崎建設株式会社	(一社)北海道
	優秀賞	被災した裏込工のICT起工測量	河村 昌益	東亜建設工業株式会社	東京
	優秀賞	都市内高速道路特有の厳しい施工条件に対する大規模塗替塗装の対策	平野 良和	株式会社横河ブリッジ	日本橋梁建設
	特別賞	該当なし			

第29回 技術論文審査委員会 委員・幹事 名簿 (令和7年3月31日現在)

委員長	野田 勝	(一財)日本建設情報総合センター理事	加藤 絵万	関東地方整備局 東京港湾事務所長
廣瀬 昌由	国土交通省 技監		徳元 真一	国立研究開発法人 土木研究所 研究調整監
副委員長	幹事長		野田 厳	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 特別研究主幹
中崎 剛	国土交通省大臣官房 技術総括審議官	西野 毅	国土交通省大臣官房 技術調査官	芝浦工業大学 工学部 土木工学科 教授
委員	幹事		勝木 太	(一財)日本建設情報総合センター 建設情報研究所 研究開発部長
沓掛 敏夫	国土交通省大臣官房 技術審議官	武藤 健治	関東地方整備局 企画部技術調整管理官	(一社)全国土木施工管理技士会 連合会 専務理事
藤田 光一	国立研究開発法人 土木研究所 理事長	三上 晃	関東地方整備局 港湾空港部事業計画官	
小野 潔	早稲田大学 教授	菊田 友弥	関東地方整備局 荒川下流河川事務所長	
河合 弘泰	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所長	本田 卓	関東地方整備局 東京国道事務所長	

第12回 土木工事写真コンテスト 審査結果発表

応募総数は148作品、今回もたくさんのご応募ありがとうございました。

土木写真家の西山芳一氏をお迎えし、写真審査幹事会ならびにJCMLレポート編集集委員会に於いて厳粛に審査を行い下記の結果となりました。

受賞おめでとうございます!!

◆最優秀賞（賞金5万円）

『工事も収穫も急ピッチ』 伊藤 良一様（神奈川県）

◆優秀賞（賞金1万円）

『橋桁の吊り上げ架設に向けて』

笠井 忠 様（奈良県）

『晩夏の除礫軍団』

石川 勉 様（水元建設建設株式会社/北海道）

『有明のウユニ塩湖』

山口 和貴 様（株式会社不動テトラ/福岡県）

『絶賛建設中』

村山 真也 様（神奈川県）

『クリスマスの燈』

後藤田 雄星 様（茨城県）

◆入選（クオカード5千円）

『富士山に向かって』

松本 堅太郎 様（静岡県）

『トンネル アート』

鬼原 浩敏 様（大分県）

『地盤と戦う男達!』

木下 哲治 様（旭建設株式会社/宮崎県）

『朝焼けにほっこり』

岸野 義夫 様（株式会社宇佐美商会/北海道）

『夕暮れのハイウェイ』

芝崎 静雄 様（愛媛県）

『「100年の汚れ」』

加藤 政行 様（神奈川県）

受賞作品はHPよりご覧になれます。

<https://www.ejcm.or.jp/photo/>



最優秀賞作品

西山 芳一氏

土木写真家

東京造形大学 デザイン学部写真学科卒

「土木を撮る会」事務局長

写真集

「港湾遺産」埋立浚渫協会（2002年）

「タウシュベツ」講談社（2002年）

「水辺の土木」INAX出版（2003年）

「トンネル」施工技術総合研究所（2005年）

「美しい土木・建設中」パイインターナショナル（2013年）

「UNDER CONSTRUCTION」マガジンハウス（2013年）

「鉄道遺構再発見」LIXIL出版（2015年）

「激闘」NEXCO中日本（2016年）



第12回審査講評

土木写真審査幹事長
西山 芳一

土木工事の現状を見ると新規の大型工事はかなり減っているように思えます。ダムでは再開発が主流になりつつあり新規の建設は数えるほどです。橋梁においても海洋に架かるような長大橋の建設は姿を消し、主に床板取り換えなどの補修工事がほとんどになってきています。この土木工事写真コンテストも撮影の興味がそそる被写体が徐々に少なくなって、それが応募の減少につながっているのは事実かとも思えます。

実際、今回を例にとると一つの同じ現場の応募が多いことに驚かされます。それは新東名高速道路秦野工事区間の河内川橋です。確かに大きさも工法も立派で、いくつもの巨大なワーゲンがアーチを登って各々近づいてゆく様を見るのは最近では珍しく、直下の道の駅や国道246、現東名高速からも容易に見ることができるので、応募数が多かったのでしょう。優秀賞に2点も受賞いたしました。

しかし、土木工事は大型工事ばかりではありません。実際、応募の半数以上は地域を支えるインフラ整備工事の写真です。一般の方々是比较的規模の大きな土木工事を外部から見かけて撮影して応募されることで、テクニックはありながらも被写体に恵まれないという苦労をなさっていることでしょう。しかし、現場関係者の方々の中には日常的に見慣れている風景なので素晴らしい被写体の中にいても気が付かないので撮らないということが、いろいろな現場内を撮影していると感じられます。最近は現場内撮影に対する発表規制で撮影を躊躇されているということもあるでしょう。SNSでの発表は規制されていても当コンテストは別ですので応募する旨に関係者などに相談してみてください。単に写真を撮ってすぐさまSNSで拡散するよりも、良い写真を撮ってコンテストに応募し、現場を見せるだけでなく写真の質をも向上させる努力をしてみたいはいかがでしょうか。

なお一層のご応募、お待ちしております。

第13回 土木工事写真コンテスト 募集中!!

1. 応募資格：どなたでも応募できますが、写真の著作権を持つ方に限ります
2. テーマ：(1) 土木工事に関する写真で2025年に撮影したもの*
 - *1 合成加工→不可
 - *2 デジタル写真作品のトリミング→可
 - *3 自然な濃度や色味の調整→可(2) 躍動感ある「現場」の様子や、「働く人達」の様子
*被写体の了解はとってください
3. 応募条件：過去未発表のオリジナル作品
4. 募集締切：**2025年12月31日**

- ・応募作品は「写真家 西山芳一先生」を招き厳正な審査。
- ・入賞・入選作品は、JCMレポートやHP、ポスター、JCMが発行する書籍等へ掲載いたします。

あなたの感動の現場写真をお待ちしています!!



第12回 優秀賞
(2024年度)

最優秀賞5万円・優秀賞1万円
入選プリペイドカード5千円分

<https://www.ejcm.or.jp/photo/>

2025 年度 JCM講習会

申込受付中!!



JCMセミナー【1】 (堺講師) 「～施工事例から学ぶ施工管理論～」

特に施工技術は、諸先輩の経験や感覚を吸収し、また、個々の技術者自身もいろいろな失敗を経験しながら技術を体得するのが一般的ですが、経験に頼りすぎると

- i. 経験者（ベテラン）の判断を重視しすぎる
- ii. 論理性が不十分なため、次世代への技術の伝承が難しい
- iii. 現状を改善しようというインセンティブが生まれにくい

というような問題点があります。

JCM においては、所属会員の方から投稿された、数多くの実施工事例に関する論文が蓄積されています。机上での施工管理論（既存のテキスト）に加えて、それらの事例を適所に流用して説明することは、学習に対する大きな効果が期待できると思われます。

その結果として、特に若手技術者が「施工管理論」をよく理解し、

- i. 経験の蓄積を、より効率的に技術力アップに繋げていくこと
- ii. 施工現場での技術や技能の継承がスムーズに行われていくこと
- iii. 施工管理技術の活用により、現場での具体的な生産性向上を生み出していくこと

を期待しています。



JCMセミナー【2】 (十河講師)

コンクリート工事で高評価を受けるための講座 ～コンクリート構造物の健康寿命を延ばすために～

コンクリート工事において、ひび割れや豆板などの不具合を生じさせることが多々あります。不具合は耐久性を阻害するだけでなく、工事成績にも影響し、技術者としての信頼性も低下します。また、近年は維持管理の重要性が叫ばれています。

本セミナーでは、JIS 生コンの改正や土木学会コンクリート標準示方書の改訂などを加えた「良いコンクリートをつつための要点（改訂第 10 版）」と維持管理に関する参考資料をもとに、コンクリート工事で高い評価を得るための技術を学び、コンクリート構造物の健康寿命を延ばす技術の要点を学ぶことができます。

セミナーは、以下の内容です

- (1) 良いコンクリート構造物を造る施工技術
- (2) ひび割れなどの不具合の抑制技術
- (3) 維持管理のための点検・診断・延命化技術



DVDセミナー 会場参加型…WEB 受講ではありません

- 【1】「現場の創意工夫Ⅱ」
- 【2】「覗いてみよう現場の DX」
- 【3】基礎から学ぶ「道路橋の維持管理講座」
- 【4】建設工事で役立つ自然災害の知識 ～さまざまな自然災害 なぜ起きて どう現場に影響するのか～
- 【5】どこでも 3 次元で測る ～3 次元測量概要と活用事例紹介～
- 【6】現場における DX 管理事例 ～建設現場で活かせる DX の基礎知識 × 課題解決事例～

※ 1. DVDセミナーは各都道府県技士会・支部等が【自主開催】する事があり、問合せは各技士会等に願います。

※ 2. 【1】～【3】は令和 5 年度、6 年度 JCM セミナー録画版

【4】～【6】は日本マルチメディア・イクイップメント作成版

講習会の詳細については、JCM ホームページをご覧ください。
<https://sas.ejcm.or.jp/jcm/common/common/eventCalendar>



主催：(一社) 全国土木施工管理技士会連合会 (JCM)

お問合せ先：セミナー事務局 E-mail : semina@ns.ejcm.or.jp
TEL : 03-3262-7425 (平日 10:00～12:00 13:00～16:30)

2025年度 JCM講習会 日程

【形態について】

1. 対面 : 参加者は会場に集まり、講師と対面で行う講習会
2. 配信メイン=対面 : 参加者は会場に集まり、講師と対面で行う講習会（サテライト会場に配信を行う）
3. サテライト : 参加者は会場に集まり、講師は配信メイン会場からオンラインで講義を行う講習会

JCMセミナー【1】「～施工事例から学ぶ施工管理論～」 堺講師

講習日	形 態	開催地	開催会場名
6 / 3(火)	対 面	茨城県	茨城県建設技術研修センター
6 /25(木)	配信メイン	福井県	福井県建設会館
6 /25(木)	サテライト	宮城県	宮城県建設産業会館 1 階大会議室
6 /25(木)	サテライト	山形県	山形県建設会館 3 階会議室No.1
6 /25(木)	サテライト	山形県 (最上)	山形県建設業協会最上支部
6 /25(木)	サテライト	山梨県	山梨県建設会館 3 階大会議室
6 /25(木)	サテライト	静岡県	静岡県男女共同参画センター あざれあ501会議室
6 /25(木)	サテライト	愛知県	愛知県産業労働センター (ウインクあいち) 1101号室
6 /25(木)	サテライト	鹿児島県 (奄美)	奄美建設会館
7 / 9(水)	配信メイン	秋田県	秋田県建設業会館 別館 大会議室
7 / 9(水)	サテライト	栃木県	栃木県建設産業会館 3 階大会議室
7 / 9(水)	サテライト	新潟県	新潟県建設会館 5 階大会議室
7 / 9(水)	サテライト	石川県 (金沢)	石川県建設総合センター
7 / 9(水)	サテライト	石川県 (小松)	一社) 小松能美建設業協会
7 / 9(水)	サテライト	石川県 (七尾)	一社) 七尾鹿島建設業協会
7 / 9(水)	サテライト	兵庫県	兵庫建設会館 3 階アクシスホール

講習日	形 態	開催地	開催会場名
7 / 9(水)	サテライト	徳島県	徳島県建設センター栄の間 (6 階)
7 / 9(水)	サテライト	福岡県	福岡県自治会館
7 /24(木)	対 面	北海道	札幌駅前ビジネススペース 2 A
9 / 2(火)	対 面	香川県	香川県土木建設会館 4 階大ホール
9 /16(火)	対 面	兵庫県	姫路建設会館 大会議室
10 / 6(月)	対 面	神奈川県	神奈川県建設会館 2 階講堂
10 /21(火)	対 面	大阪府	エル・おおさか (大阪府立労働セ ンター) 5 階視聴覚室
11 /10(月)	対 面	滋賀県	夢けんプラザ (滋賀県建設会館)
11 /25(火)	配信メイン	沖縄県	ダブルツリー byヒルトン那覇首里城 2 階守礼の間
11 /25(火)	サテライト	新潟県	新潟県建設会館 5 階大会議室
11 /25(火)	サテライト	長野県	松筑建設会館 3 階大会議室
11 /25(火)	サテライト	静岡県	静岡商工会議所403号室
11 /25(火)	サテライト	兵庫県	姫路建設会館 大会議室
11 /25(火)	サテライト	奈良県	一社) 奈良県建設業協会 6 階研修室
11 /25(火)	サテライト	岡山県	岡山建設会館 4 階ホール
11 /25(火)	サテライト	広島県	広島県健康福祉センター 8 階大研修室
11 /25(火)	サテライト	愛媛県	テクノプラザ愛媛 (テクノホール)
11 /25(火)	サテライト	高知県	高知県建設会館 4 階
11 /25(火)	サテライト	鹿児島県	鹿児島県建設センター

JCMセミナー【2】コンクリート工事で高評価を受けるための講座～コンクリート構造物の健康寿命を延ばすために～ 十河講師

講習日	形 態	開催地	開催会場名
6 / 3(火)	対 面	静岡県	静岡県男女共同参画センター あざれあ501会議室
6 /17(火)	配信メイン	長野県	ホテル信濃路 3 階 飯綱
6 /17(火)	サテライト	石川県 (河北沢)	河北郡市土建協同組合
6 /17(火)	サテライト	石川県 (小松)	一社) 小松能美建設業協会
6 /17(火)	サテライト	石川県 (七尾)	一社) 七尾鹿島建設業協会
6 /17(火)	サテライト	静岡県	静岡商工会議所402会議室
6 /17(火)	サテライト	奈良県	一社) 奈良県建設業協会 6 階研修室
7 / 2(水)	対 面	愛媛県	テクノプラザ愛媛 (テクノホール)
7 /29(火)	配信メイン	山形県	山形県建設会館 3 階会議室No.1
7 /29(火)	サテライト	新潟県	新潟県建設会館 5 階大会議室
7 /29(火)	サテライト	静岡県	静岡労政会館 視聴覚室
7 /29(火)	サテライト	高知県	高知県建設会館 4 階
9 / 5(金)	対 面	宮城県	宮城県建設産業会館 4 階第 2・3 会議室

講習日	形 態	開催地	開催会場名
9 /25(木)	対 面	愛知県	愛知県産業労働センター (ウインクあいち) 1201号室
10 /15(木)	対 面	栃木県	栃木県建設産業会館 3 階大会議室
10 /27(月)	対 面	茨城県	茨城県建設技術研修センター
11 /12(木)	配信メイン	徳島県	徳島県建設センター鶴の間 (7 階)
11 /12(木)	サテライト	岩手県	岩手県建設会館 4 階第 1 会議室
11 /12(木)	サテライト	秋田県	秋田県建設業会館 別館 大会議室
11 /12(木)	サテライト	新潟県	新潟県建設会館 5 階大会議室
11 /12(木)	サテライト	広島県	広島県健康福祉センター 8 階大研修室
11 /12(木)	サテライト	長崎県 (県央)	公財) 長崎県建設技術研究 センター
11 /12(木)	サテライト	長崎県 (対馬)	対馬建設会館
11 /12(木)	サテライト	長崎県 (壱岐)	壱岐建設会館
11 /12(木)	サテライト	長崎県 (五島)	五島建設会館
11 /27(木)	対 面	鹿児島県	鹿児島県建設センター



◆当会概要

当技士会は、会員相互の協力によって、建設工事の適切な施工に必要な専門知識の普及、並びに土木施工管理技士の社会的地位及び能力の向上に努めることにより、滋賀県の社会基盤整備に貢献し、もって公共の福祉に寄与することを目的に平成4年7月1日に設立し、会員数は法人会員である賛助会員が193口、個人会員である正会員が1,410名（令和7年3月1日時点）である。

◆技士会活動状況

(1) 連合会、近畿地区ブロック連絡協議会、近畿7府県技士会との連携

近畿地方整備局長をはじめとする発注局幹部と、近畿7府県（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）との意見交換会を例年実施し、昨年度は、和歌山県技士会主幹のもと、当会はコンクリート構造物のプレキャスト化の推進について意見を交わした。又、県内発注機関と現場の諸課題改善に関する要望を重点的取組み事項とした意見交換会は、滋賀県土木交通部技術管理課及び近畿地方整備局滋賀3事務所に対して施工管理上の諸課題を抽出し、設計変更、工事関係書類の簡素化等、さらには将来の担い手確保・育成について協議を行なった。

また、連合会との共催により、JCMセミナーを実施、また、滋賀県と共催で、現場管理、維持管理、建設DX活用研修等を含め実施し、CPDS継続学習の機会を少しでも多く提供できるよう努めている。

(2) 滋賀県技士会の取組

当会では担い手確保・育成の取組も行い、滋賀県と建設業界とが官民共同で、建設産業の技術、役割等を体験し一般の方々特に将来の担い手である子供たちに理解してもらうことを目的に「滋賀けんせつみらいフェスタ」を開催し今年で11年目となる。このフェスタでは土木施工管理技士会としてブースを出展し、毎日現場で使用する測量機械でのパフォーマンス、技士が手掛けた押し工事

現場の写真コンテスト、3Dプリンターの実演などゲームを交え紹介し、昨年、令和6年度は5,000人の方々が参加している。

また、女性活躍委員会では工業高校の女生徒との交流会を開催し少人数の班に分かれて、建設業界



フェスタ内写真コンクール

における女性の活躍、及び、今後の進路決定の選択について意見を交わし先輩としての話を伝えた。

(3) 県外・県内・現場見学会

近畿地方整備局管内の工事現場を見学地として研修をしている。新技術の見学及び現場担当の技士より工事の説明を受け専門知識の向上に努めている。又、毎年会員の要望を聞き、工事現場を選び、今年度は大阪で開催される万博を見学予定としている。



工事現場見学会



災害現場見学会

◆滋賀の魅力

日本の真ん中に位置する滋賀

大自然がそのまま今なお点在する滋賀、その中央に県土の約6分の1を占める日本最大の湖・琵琶湖を抱え、周囲には緑豊かな山々や田園風景が広がり、水と豊かな自然にふれあうことができる場所である。悠々と水をたたえる琵琶湖と周辺が織りなす美しい風景は、季節の移ろいに応じた折々の景観として楽しむことができる。

また、2026年NHK大河ドラマ放送予定『豊臣兄弟!』も滋賀に由縁が有り、明智光秀、織田信長、豊臣秀吉、や甲賀の忍び等、英傑たちの足跡、歴史情緒が残る町並みなど、奥深い歴史文化もあり、国内有数を誇る歴史文化遺産は、今もなお滋賀県内の至る所で大切に守り伝えられている。



◆技士会概要

当技士会は、土木施工管理技士の社会的地位の向上を目指し、建設工事における品質確保、施工管理など土木施工管理技士として、必要な専門知識及びその能力の習得に努め、社会資本の整備、公共の福祉に寄与する事を目的として、平成4年4月に設立され、現在、個人会員である正会員は1,726名、法人会員である賛助会員は146社です。（令和6年10月時点）

◆活動状況

当技士会では、研修会・講習会や現場見学会を実施して、会員の専門知識や技術力向上を図っています。

〈研修会・講習会〉

技士会会員を対象として、年2回のセミナーをそれぞれ県内2会場で開催し、支部ごとのDVD講習会を実施しており、継続学習（CPDS）の提供に積極的に取り組んでいます。

また、総会時には中央や九州地方整備局から講師を招いて講演会を開催するなど、技術面のみならず建設業を取り巻く情勢などにも触れる機会を得ながら、自己研鑽にも取り組んでいます。

さらに、公益財団法人佐賀県建設技術支援機構が実施する建設技術職員専門研修の受講料負担軽減のための支援を通して、技士会会員の更なる技術向上にも取り組んでいます。



令和6年度定期総会時講演会

〈現場見学会〉

優れた技術で施工されている建設現場や災害復旧工事などの現場見学会を実施して、技術力の研鑽に努めています。

令和4年度には、令和2年7月豪雨によって甚大な被害に見舞われ人吉地域の復興現場の視察を行い、球磨川流域における復旧事業が進んでいる一方で、いまだ営業再開できずにいる観光産業などもある実際や地域産業の実情などを知ることができました。

令和5年度には、一級河川大野川水系玉来川の洪水被害を防ぐことを目的とした治水専用の流水型ダムである玉来ダムを視察しました。

平成29年3月に本体建設工事に着手し、約18万立方メートルのコンクリート打設が令和3年8月に完了、令和4年11月に竣工し、現在、周辺整備が行われている様子などについてご教示いただきました。

また、令和6年度には、平成18年7月の鹿児島県北部豪雨災害による甚大な被害を受けたことを受けて、昭和41年の竣工した洪水調節容量を約1.3倍に増量させる再開発事業が実施された鶴田ダムを視察させていただきました。

また、鶴田ダムに近い薩摩川内市にあった貴重で、興味深い土木遺産施設も併せて視察し、現在の状況と、往時の技術と工夫を知ることができました。



令和5年度視察研修
（玉来ダム）

◆今後に向けて

建設業は就労者の高齢化や新規入職者の減に伴い、就業者の減少が目立っています。また、近年の災害は激甚化しており、応急復旧工事など迅速な対応が求められています。

一方、国等の発注機関、受注者である業界の双方において、経験や知識に裏打ちされた能力の低下が課題となっており、技術の継承、若手技術者の育成が重要となっています。

当技士会としては、従来の研修会に加えて、時代のニーズを捉えながら、若年者の確保・育成のための研修会の開催などに努めてまいりたいと考えています。

シビルコンサルティングマネージャ資格試験

試験は**CBT** (Computer Based Testing)で実施します

試験期間:令和7年9月1日(月)~10月31日(金)

詳細はRCCM資格ホームページでご確認ください

RCCM

※RCCMは「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録規程」に基づき登録されています。【登録部門は国土交通省HPでご確認ください】

令和7年4月1日以降の登録申請からRCCM登録の更新及び合格後4年以降の登録申請に必須のCPD単位数が規定どおりの200単位/4年となります。

CBT方式(試験)とは

CBTとは「Computer Based Testing」の略称で、コンピュータを利用した試験方式のことです。試験は解答用紙、マークシートに筆記用具で記述するのではなく、キーボード、マウスを利用して、すべてコンピュータで解答します。受験者は試験実施期間中の、希望する試験会場、日時を予約して受験することになります。

受験申込み

●受験には「受験申込」と「受験予約」が必要です。

受験申込⇒一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

申込受付期間 令和7年5月12日(月)~6月11日(水)

受験予約⇒プロメトリック株式会社

予約受付期間 令和7年7月4日(金)~10月28日(火)
(祝日を除く)

※受験を希望する日を含め60日前から予約が可能です。
※希望予約日が近づくに従って予約可能日時は少なくなります。

受験資格

建設事業の計画・調査・立案・助言及び建設工事の設計・管理について次の実務経験を有する者。

大学院修了後(博士課程/博士課程後期)	2年以上
大学院修了後(修士課程/博士課程前期)	5年以上
大学卒業後	7年以上
短大・高専卒業後	9年以上
高校卒業後	11年以上
中学校卒業後	14年以上

受験科目

問題Ⅰ…受験する専門技術部門の業務経験

問題Ⅱ…業務関連法制度、建設一般の知識、技術者倫理等

問題Ⅲ…管理技術力

問題Ⅳ…土木関連の基礎的技術知識と受験する部門の専門技術知識

- (1)河川、砂防及び海岸・海洋 / (2)港湾及び空港 / (3)電力土木 / (4)道路
(5)鉄道 / (6)上水道及び工業用水道 / (7)下水道 / (8)農業土木
(9)森林土木 / (10)造園 / (11)都市計画及び地方計画 / (12)地質
(13)土質及び基礎 / (14)鋼構造及びコンクリート / (15)トンネル
(16)施工計画、施工設備及び積算 / (17)建設環境 / (18)機械 / (19)水産土木
(20)電気電子 / (21)廃棄物 / (22)建設情報

試験について

試験は、『RCCM試験A』と『RCCM試験B』の二つの試験で実施し、『RCCM試験A』は問題Ⅰ及び問題Ⅱ、『RCCM試験B』は問題Ⅲ及び問題Ⅳを受験します。

受験を完了するためには両方の試験を受験する必要があります。受験予約が可能であれば、同じ日に両方の試験を受験することも可能であり、異なる試験会場、異なる日時で受験することも可能です。

受験申込・受験予約の流れ

RCCM資格ホームページのWeb申請システムより受験申込書を作成します

受験手数料支払い後にメール送信される受験申込書(PDF)を印刷し、本人の署名捺印、所属会社の証明を受け、添付書類を添えて郵送(簡易書留)申込みします

受験申込書記載内容、添付書類などに不備が無ければ受験申込を受理します

申込が受理された受験者に受験申込番号を記載した受験申込番号通知を郵送します

プロメトリックのホームページより、受験希望の会場、日時を予約します

予約した『RCCM試験A』、『RCCM試験B』の両方を受験してRCCM資格試験の受験が完了します

建設コンサルタンツ協会に対応する範囲

プロメトリックで対応する範囲

問い合わせ先

◎受験申込に関すること

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 RCCM 資格制度事務局
Tel:03-3221-8855 e-mail:rccm@jcca-si.jp

◎受験予約に関すること

プロメトリック株式会社

※お問い合わせフォーム、電話のお問い合わせ先はホームページで確認してください。

https://www.prometric-jp.com/examinee/test_list/archives/31

CONCOM

建設技術者のための情報発信サイト

監理技術者、主任技術者必見!!

知って得する、読んでためになる



お薦めコンテンツ以外にも、建設技術者の技術向上につながる建設業界の最新情報を発信しています。是非一度アクセスを！

運営  一般財団法人
建設業技術者センター(CE財団)
Construction Industry Engineer center



NEW

『建設ディレクター』

～現場を支える新しい働き方～

現場技術者の時間外労働の削減の切り札として注目されている「建設ディレクター」のシゴトに注目。新しい働き方を紹介。

現場の失敗と対策

工事現場でのよくある失敗・トラブルについて、その原因と対策を事例とともに学ぶ

現場探訪

整備局等の表彰工事、ICT施工、話題の新技术の現場をレポート

土木遺産を訪ねて

土木学会選奨土木遺産に認定された歴史的構造物を周辺の見どころを交えて探訪

講習情報

CPD、CPDS 認定の講習会やセミナー情報をカレンダー形式で掲載



<https://concom.jp>

JCM
REPORT

Vol. 34 No. 3 2025. 5
2025年5月1日 発行
(隔月1回1日発行)

編集・発行
一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会
Japan Federation of Construction
Management Engineers Associations (JCM)
〒102-0076 東京都千代田区五番町6-2ホームートホライゾンビル1階
TEL. 03-3262-7421 (代表) FAX. 03-3262-7420
<https://www.ejcm.or.jp/>

印刷
第一資料印刷株式会社
〒162-0818 東京都新宿区築地町8-7
TEL. 03-3267-8211 (代表)

技士会の監理技術者講習

～経験豊かな地元講師による対面講習～

学習履歴（CPDSユニット）の自動登録

継続学習制度（CPDS）の学習履歴（CPDSユニット）登録を希望する方は、自動で登録されるので手続きは不要です。ただし、学習履歴登録は、CPDSに加入している必要があります。

講習修了者は、12ユニット取得できます。ただし、状況により取得できない場合があります。

監理技術者講習の有効期間

監理技術者講習の有効期間は、受講した日から5年後の年の12月31日までです。

有効期間を更新される方は、有効期限を迎える年のいつ受講しても有効期限は、5年後の年の12月31日までです。早めに受講されることをお勧めします。

講習日程

講習地		講習日	講習地		講習日	講習地		講習日
北海道	札幌	令和7年5月27日(火)	新潟 新潟	新潟	令和7年9月10日(水)	徳島 徳島	徳島	令和7年11月8日(土)
		令和7年11月14日(金)			令和7年12月10日(水)			令和7年8月27日(水)
		令和7年12月12日(金)	福井 福井	福井	令和7年11月11日(火)	香川 高松	高松	令和7年11月26日(水)
		令和8年2月13日(金)			令和7年7月9日(水)			令和7年8月26日(火)
		令和8年3月6日(金)	山梨 甲府	甲府	令和7年12月10日(水)	愛媛 松山	松山	令和7年10月9日(木)
	旭川	令和7年5月9日(金)			令和8年2月18日(水)			令和7年7月11日(金)
		令和8年1月23日(金)	愛知 名古屋	名古屋	令和7年7月10日(木)	高知 高知	高知	令和7年7月23日(水)
		令和7年5月23日(金)			令和7年12月11日(木)			令和7年9月24日(水)
	帯広	令和7年11月21日(金)	鳥取 倉吉	倉吉	令和7年6月18日(水)			令和7年12月3日(水)
		令和8年2月6日(金)			令和7年9月11日(木)			令和8年2月5日(木)
栃木	宇都宮	令和7年5月14日(水)	鳥取 鳥取	鳥取	令和7年12月4日(木)	宮崎 宮崎	宮崎	令和7年5月15日(木)
		令和7年11月26日(水)			令和7年5月12日(月)			令和7年8月22日(金)
		令和8年3月6日(金)	岡山 岡山	岡山	令和7年9月18日(木)			令和7年11月20日(木)
東京	東京	令和7年5月16日(金)			令和8年2月27日(金)	延岡 延岡	延岡	令和7年6月13日(金)
		令和7年7月11日(金)	広島 広島	広島	令和7年5月20日(火)			令和7年10月16日(木)
		令和7年9月19日(金)			令和7年9月5日(金)	都 都	都	
		令和7年11月14日(金)			令和7年10月15日(水)			
			福山 福山	福山	令和7年10月3日(金)			
					令和7年7月23日(水)			

お申込みはホームページから <https://www.ejcm.or.jp/training/>
郵送申込み用紙もダウンロードできます

国土交通大臣登録講習実施機関（大臣登録：平成16年7月30日付・登録番号5）

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会

Japan Federation of Construction Management Engineers Associations (JCM)

電話（代表）03-3262-7421 / FAX03-3262-7420 <https://www.ejcm.or.jp>

定価220円（本体200円＋税10%）

（会員の購読料は会費の中に含む）